

山丹唐太極殿記 繪圖三枚

享和元年辛酉正月朔日命御火目所為攝
太夫御著請供中村小布郎唐太宮見多則為
攝者而唐太見多中村者東唐太見多西園師
赤山者書國如治殿之產而此役為攝唐太夫
所而園師より了隨行其後文化二年正月
於仲氏新城方街誌之記

正月朔日北殿唐太宮三内儀之御火目所為攝
唐太場白土派之看取、宗谷三、保子、東風、其子之
針、向、米、山、風、六、女、子、西、方、



門 呂 4
冊 327
卷 5



山丹唐太蝦夷記 并繪圖三牧漆

享和元年辛酉五月蒙台命御少人目所高橋治
大夫御普請役中村少市郎唐太崑見分則高
橋者西唐太見分中村者東唐太見分西園師
赤山者當國加治敷之産而此役高橋治大夫
所西園師トナリテ隨行其後文化二乙丑年三月
於仲氏新城方街諸処ヲ記ス

九月晦日北蝦夷宗谷ノ三内添ヲ朝六ツ羊時乗船黄昏
唐太嶋白至深ニ着船ス宗谷三内添ヨリ東風十六子丑
ニ針ヲ向ケ末申ノ辰ニ去子兩方ニ帆ヲ向ケテ走ル白至ヨリ

二里許辰ノ方ニ當リノトロト云白巽アリ其西ニ當テ山アリ
其山下ハ即白主添之添合磯一町許ノ間荒磯ニテ乘
込三丑ニハレ此添申酉ノ風吹込ハ波高ク其餘ノ風ハ
入波ニテカヒナシ海ノ深サ六ヨ尋ヨリニ尋半迄之磯十
間許遠浅ニテ傳馬船モ附カクニ釣場スレナク隨分
ヨシ六月ヨリ七月上旬迄ハ此添ヨロシキヨシ白主東西
七八里流シ去ヨリ辰ノ向何モ塩ハ東へ行ト意得ベシ
宗谷三内沖ヨリ十里許ノ間汐卯ノ方ニ引取十二里
ハカリニシテ海水ウツ巻海底ニ大岩多クアルカ早瀬ノ
川ノ岩ニクダク水ノ如ク逆浪甚ハゲシ十五里許ニシテ
潮ヨクヤ漸ク平ニシテ波浪々静之十七八里許ノ間ハ潮

辰己ノ方へ夥シク引取帆足許ニテハ船登リ難ク誠ニ
瀬戸内ノ大潮時ノ如ク東エ引取ル風少キ時ハ針路ヨリ
西ノ方へ向ケテ可乗風止去時ハ向毎ハ白主添へ入船覺
束ナシ此十八里ノ渡海甚難波ナリ依テ船頭船子凡
能々此海ヲ常ニ乗馴ル者ヲ選ビ渡海スレシ西唐太
見今役御少人目附高橋治太丈繪圖工赤山家士
五人唐太通辞松前一人アツケシ太郎ト申蝦夷人
一人舟子八人以上十六人也

右来ヨリ山丹人蝦夷地宗谷ニ来テ交易ス通頃松前候
ヨリ唐太地白主ト云所ニ役所番人ヲ建交易ス此全ク
唐太地松前候ノ下知ヲ受ル故也此ニヨツテ山丹人白主ニ

来テ交易ス惣ビテ唐太海上六遠浅ニテ水中隱岩多
乗船甚難成故ニ小舟ナラデハ岸ニヨセカク山丹人
乘来ル舟大体長サ三丈幅八尺許櫓左右ニ四挺宛
八丁也帆柱ナシ只櫓ニテヨギ来ル一艘ニ八九人乗也
高橋治太夫白主着船時山丹國ノ船八艘来居人
數四十人内一般ノ人名ヲた記ス

每頭カワテカイ アツク コイコ ナカ シシカ
ヘマツカ バリカ ヌイト 都合八人餘ハ零ス
山丹人ハ甚日本ノ獺皮及物鐵類ヲ貴トゾ獺皮ハ
山丹滿州ニテ國王諸候ナラテ服セスト云價甚貴

山丹人語

日ハイ月ニヨチン水モ米ボタ 錢エシヤ 桿ウリシカク
火打チ毛キイ娘^{チキタ} 女房^{イゴ} 衣ホト 烟管^{タイ}
帯^{チモリ} 皆^{チタ} 股引^{カウ} 鍋^{ハツ} 輕^{カク} 多^{ハイ} 鍵^{ケタ}
弓^{ホレ} 矢^{ジマ} 舟^{ベレ}

唐太ハ宗谷ヨリ東北ニ當リ蝦夷地ヨリ寒氣彌甚
十月ヨリ土穴ヲ堀或ハ山腰ヲ堀テ二月迄穴居ス穴ノ上
地上ニサステ立割木ヲ以テ此ヲ覆ヒ風雨ヲフセク但割
木ノ上ニ土ヲヌルナリ煙出ル土ニテ燒物ニ七八尺ノ筒ヲコ
ラヘ其筒穴ヨリ煙ヲ出ス

十月ヨリ二月迄海水磯ヨリ二三百間モ堅氷上成三月ニ至
リテ漸ク解ク

地頭領主ナク只一己カガリ之金銀錢ノ通用ナシ米穀野
菜ノ食物ナク只魚鳥獸ヲ食シテ命ヲ保ツ^ト魚ハ得易
ク鳥獸ハ得難シ故ニ獸肉ヲ珍味トス高橋治太夫見
分先ニテ熊肉ヲ水煮ニナシテモテナセト云

銅鉄ノ類ナシ鍋ハ土器燒物ナリ

鹽ヲ食スル事ヲ不知只魚肉ヲ水煮ニシテ喰フ甚酒
煙草ヲ好ム然レ得ル稀ニ此ニ渡ル酒煙草ハニ松前
ヨリ來ル酒ハ水ヲ多ク加テ味淡シ高橋氏案内スル
唐太人ニ醇酒ヲ吞スル一三四盃スバ酔テ暫ク死人ノ
如クト云リ

金銀銅鉄ナキ故煙管ハ國産ノヤワラカナル石ヲ彫刻

シテ用ヘテウ竹ヲイル所ノ小口三分許銅或ハ真鍮ノ
カワラヲク吸口ナク只ラウ竹許ニサラ方唐草篆
字ノ如キホリ物ヲナス石ハ赤黒ニシテ石質温石ノ如シ
衣服ハ山丹ヨリ來ル木綿ヲ用ユ

男子ハ頭髮ヲ前ノ方半分餘ソリ後ノ方ヲノコス髮
ノ長サ尺許ニシテ後ノ方ヘナテオロシニス前ヨリ見レハ僧
ノコトシ^ズ襪ハ左ヲ上ニシテ右ヲ下ニス

文字ナク曆ナク耳ニ環ヲツクル髻^{ヒシ}ヲソラス長スバ
三ツ組ニシテ下ニタル

女子ノ帶ハ真鍮ノ廣サ方三寸許ノ平ラカナル物ニ木
化ノ如キスカシ有物ヲセツナキテ其ヲ前ノ方ニ當^ラ其餘ハ

組紐ノ類ヲ續テ右ノ服ニテ結ビサゲス此帶金物山舟ヨリ来ル語言ハ蝦夷ト異ニシテ山舟ト又別ナリ
食物ハ穀類ナキ故魚鳥獸肉ヲ用中モ魚ヲ專トス冬春完居ノ食物ハ干鮭干鱒ニシテ用ユ魚獵ナキ時ハ餓死ニ及フト云

雪中ニ舟ノ形ノ如キ物長サ一丈許ニシテライ此乗テ大ニ引セテ往来ス名付テハソウト云二人乗寸ハ大丸足二人乗寸大十足ニ引スル之日本ノソリノ如キ物之此國ノ大形長大ニシテ勢力甚強ト云人ヲ乗スル物ヲコシト名付惣名ヲハソフト云食器ノ類木ヲクリテ作ル漆ナシ故ニ木地之鎧甲アリ獸皮木皮或ハ鯨皮ニテ製ス

唐太ト山舟連續スルカ海ヲ隔ルカ不審貞唐太ハ山舟屬スルト云

源義經此國ヲ經テ滿州ニ行ト國人語り傳フ

國幅狭キ所ニテ十里許廣キ所ニテ三十里許
夏中大暑ノ時モ綿入ノ衣服三ツモ重子服スニ猶寒シト云七月下旬ニ雪フルト云

松前ヨリ宗谷へ海路百八十里唐太白圭ヨリ宗谷
三内へ八里唐太嶋南ヨリ子ノ八分丑ノ二分ニ流ル

白圭ヨリ西海岸子ニ走ルハ當ル処モ有且へ入ル処モ是アリ白圭ヨリトシ島成ニ當ル

白圭ヨリトシナイへ二十五里トシナイヨリヲホトケリへ八里

ヲホトヨリヨリラクマヘセ里ラクヨリナヨロヘニナ五里先年
御普請役取上徳内ナヨロ迄見クナヨロヨリクシユナイ
ニ里クシユナイヨリライチシカエニ十八里先年松前候家臣
松前平角ライチシカ迄見クライチシカヨリウシヨロニ五
里ウシヨロヨリヨナイエニ五里ヨナイニ高山アリ山中巖
石ノミニテ山勢甚嶮岨ナリ義經モ此山ヲ越ナヤミテ
迄シト国人云傳アリヨナイヨリシヨヤエニ里高橋治太夫
此処迄見ク也此処着ノ時七月中旬ニテ己ニ雪降且
小船ニテ通行スル故粮糸纒二十俵積ルニ此時漸ク
ニ俵ヲ餘セル故是ヨリ先見クセズシテ歸リトシヨヤ
先ニハテト。ナツコ。タライカ。ナド云所アリト云此辺ヨリ山丹

国ニ近シ唐太ニ産スル犬ハ政犬ヒシテ勢力共強シ雪中ニ人
ヲ乗セラテ歩行ス惣名ヲハソウト云其人ヲ乗スル物ヲシケシ
ト云政ハ船ノ如ク日本ノソリニ似タリ長サニ丈餘一人乗ハ大
丸足二人乗ハ大十足ニテ引スル之十月下旬ヨリ二月下旬
迄土中ニ穴ヲ掘割木ヲ以テ四方ト上ヲ圍ミ其上ヲ土ニテ
又リフサグ穴中大サハ三間四方ホトナリ此テトヒチセト云
音曲ノ器ニ日本ノ三味線ノ如キ物アリ五絃也「イクシ子ビイ」
ト名ク鎧甲アリ木皮ニテ製ス「アヨツヘト名ク

以上唐太山丹記事

蝦夷国誌

日ニシヨ月チヨツフ日暮シリク子水ワツカ火又木ナク子

出トヒ父ソシヘ母ツテ女ソコシ兄ヨク才アキ婦シヤ妹トシ
 妻ニチ子ホ山ホリ崎ノ海アトヒ磯シライリ波ユイ舟ヲ
 雨ラフト風レイラ日和ヤ地震シリテ子雷カモイモ津波フルケ
 猪毒イカ侍ニシハ仲間ホシニハ役人ト衣類ナシツテ帯ハキ目ニキ
 鼻イトロバル髪毛ホトウ棘ヘ早艇シハ鱒イキ鱒ソシ就鳥ツル共
 鷹トビチルゴイキ鷹トビサセル路鳥カササギ鼠イルモ免イシ果てん幸ラッキー頼タカイヤ
 狐キツネ舌シテ熊ボク鹿ヨク飯喰ヌアセイベ火焼アア水汲ワカタ
 霞カゲロウモコ始而逢アハレ一シ子ゾニトツテ三ツツ四イ子ツテ五アハレアハレ
 六イワン七アルワン八ハシ九シ十ツツ百アキ百アキ二百シマワホツ
 三百アキ四百トシ五百ホツ五百アキ五百アキ五百アキ五百アキ五百アキ
 車モシヤラ穴キシヤラブイ日本人シヤモ

東蝦夷地御料トナリテ官ガ立シ高札

定

- 一 邪宗門ニ隨テ外小人ホテ一モ老モ罪をケル者
- 一 人ヲ殺シケル者皆死罪ナル者
- 一 人ノ瘡有ミテ瘡ヲ治スル者モ罪ナクシテ可ク有

日

石狩秋味運上ノ石積船ニ金三百兩日所秋味直段
 金一兩三百三十本位一本四ノ四重位鯨金一兩ニ五十五貫目
 位魚油八升ニテ四百五十錢位

△下口則文化四丁卯春三月松前候御地二回
 席上初視九石名多り色中後書互

杉木乃松守

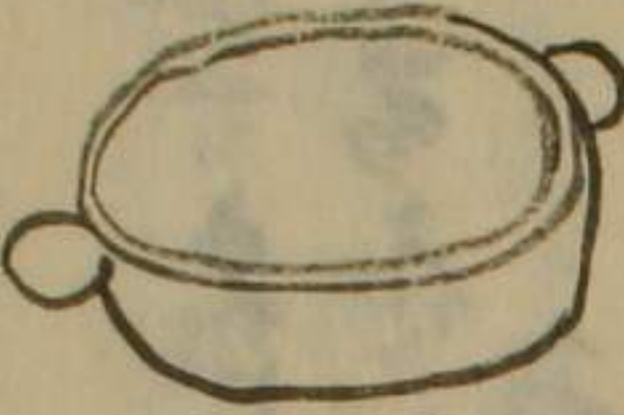
△父貞仙守家督中擬美地之法不行候異國人
 多由心等因、少故于上既松竹之朽不慎抄
 手申之不得、其思慮、亦勢之長は任行、与
 比任慮を忍入候、左和、候に相伺、有比先
 中候、

松木乃松守

△蝦夷地へ傳古斗古千方家言通退、此中へ之無、因、
 接の給、了方端し、多是難、文書振、有是違、亦難美
 地上地は任生、候之候、以是、是任、自西蝦夷地へ候、
 左し傳、于子、多限難、行候、中、之、而、因、候、不、容、
 事、以、之、乃、百、可、必、相、系、西、蝦、夷、地、一、条、こ、以、右、上、候、
 下、新、細、水、子、名、り、り、多、り、傳、東、候、ハ、道、り、
 下、水、傳、石

山丹國器物

鍋 ハツヒト云



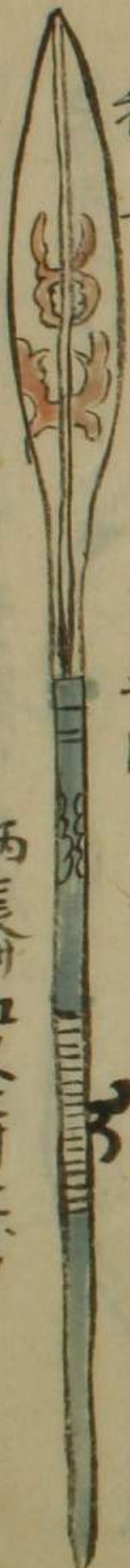
輕多 カルタ ハイト云



鑊 ケタト云

穂 長八寸七分

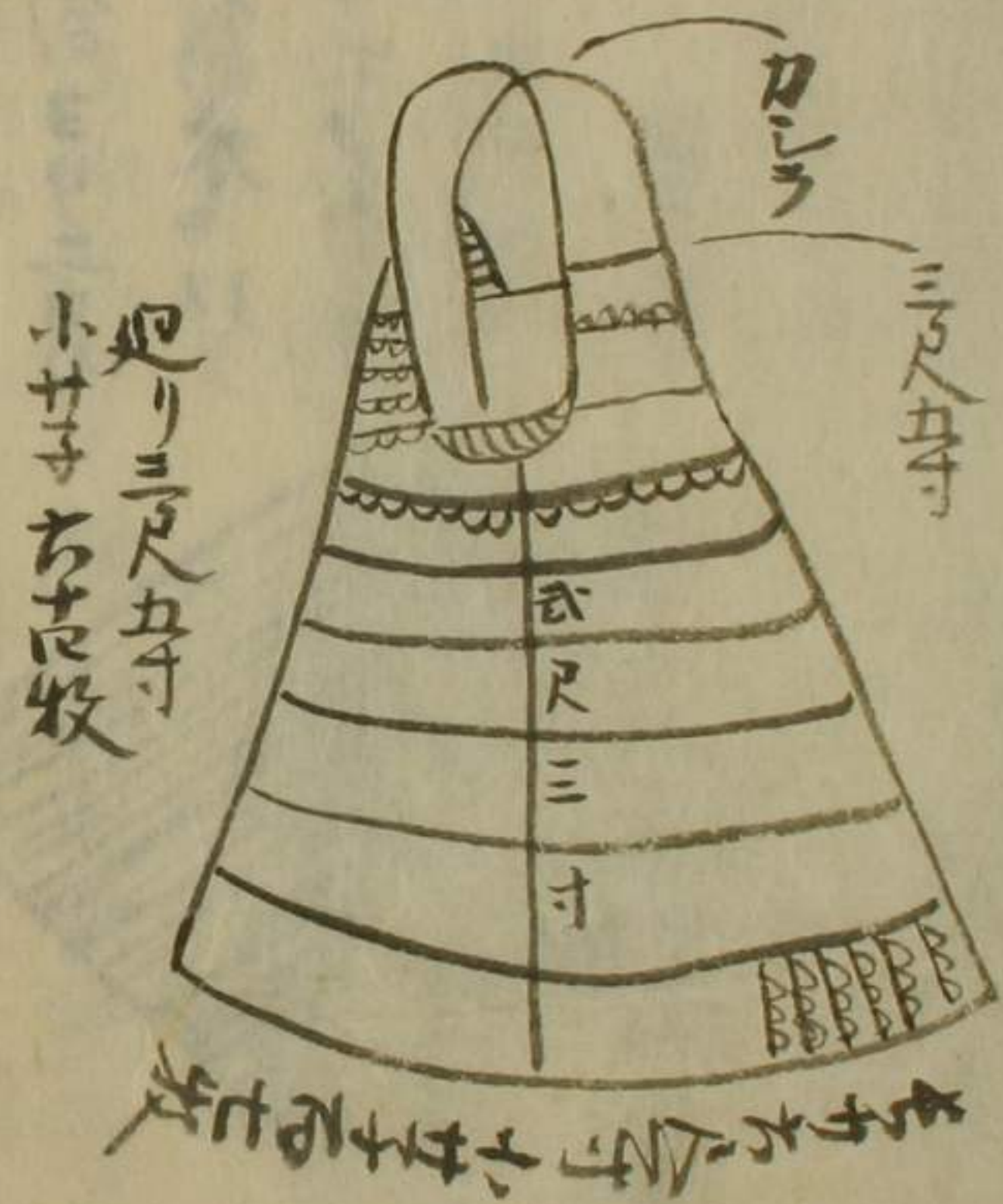
太刀拵皮 七寸七分



穂 模捺ヲキ上ニシ者
 ニテ穂ハ鑊物ナリト云

柄長 廿尺七寸七分

鎧ヲアソツヘト云
 持主カスモエシ
 此者蝦夷人也
 此鎧鯨ニテ製
 皮ヲ幅三分計
 ニ細長ク切テ
 ツリ名物ニ



圖スル所ハ唐太嶋大
 雪中人ヲ乗テ歩行ス
 物名ハソウト云
 日本ノソリヲレケト云
 長カキテ七人二人
 乗時ハ大十尺ニテ引
 スル也

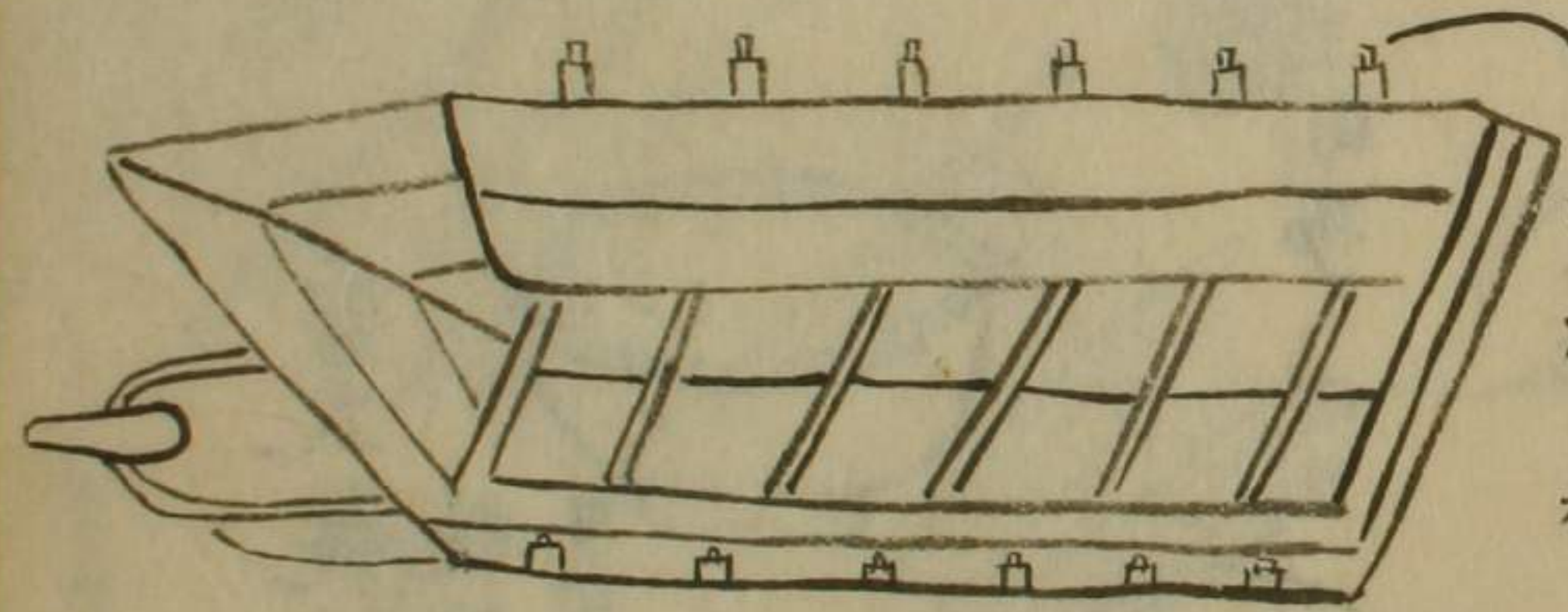
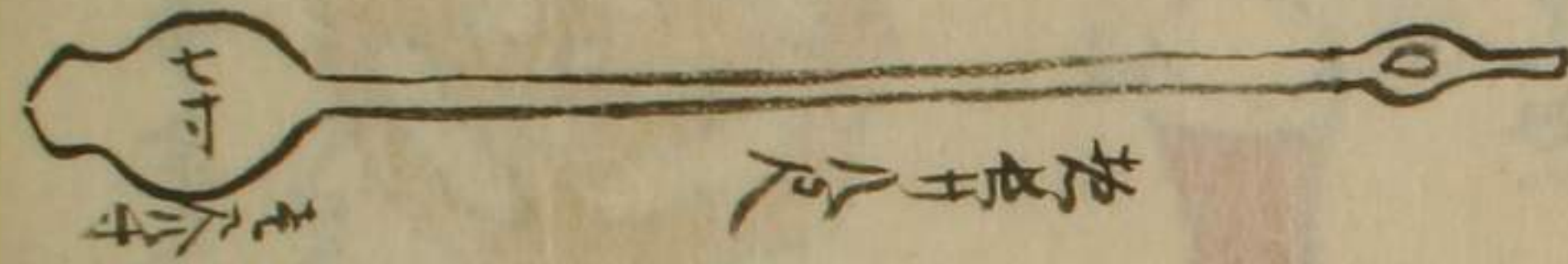


三味線ノ如キ物ニテ
 五絃ノ名ヲカトニ云
 筒ノ長サニ尺一守
 イクシ子ビイト之者
 此ヲ引
 物長サ四尺七分

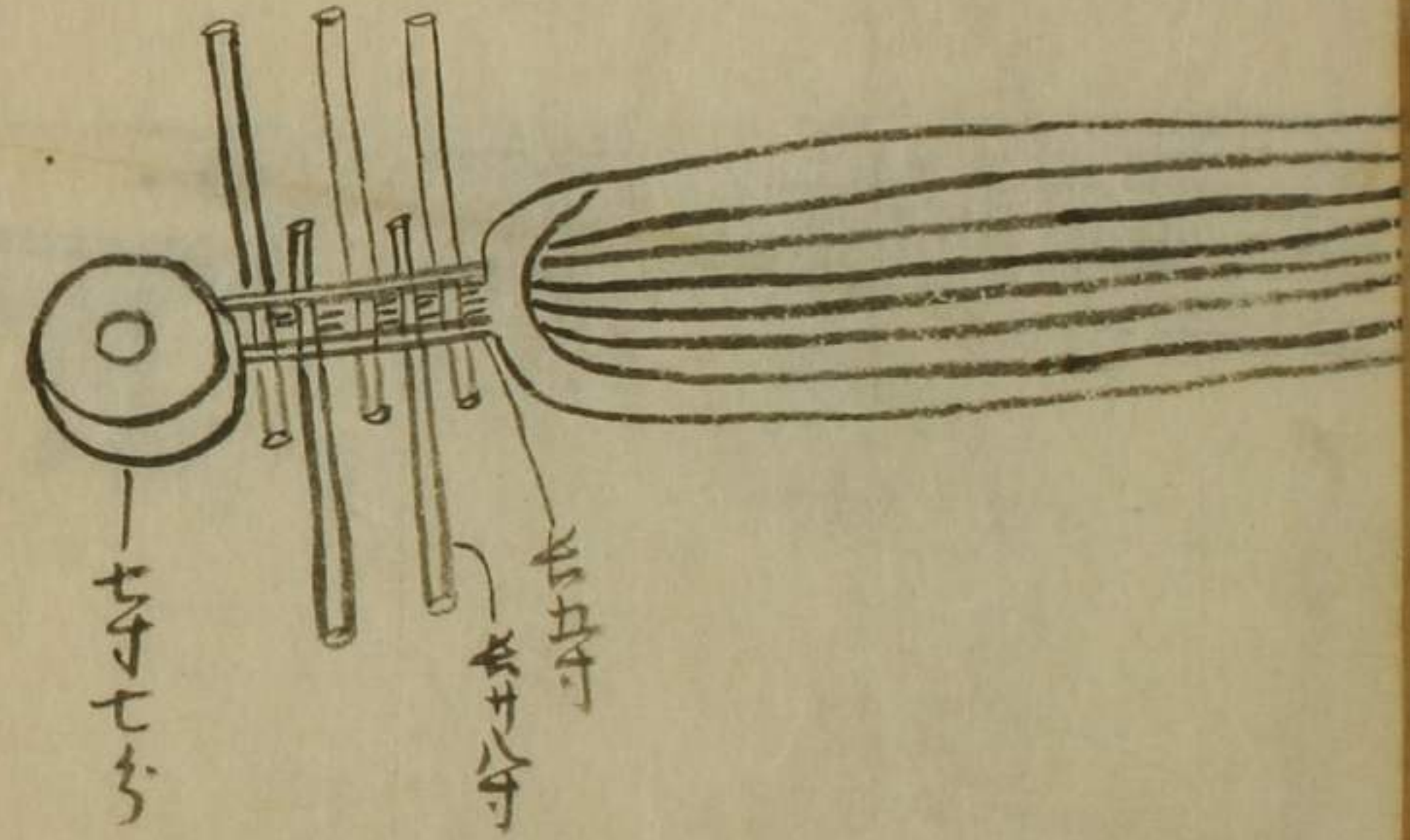


山舟船ヲヘルト云

櫓ヲ
キマウリト云



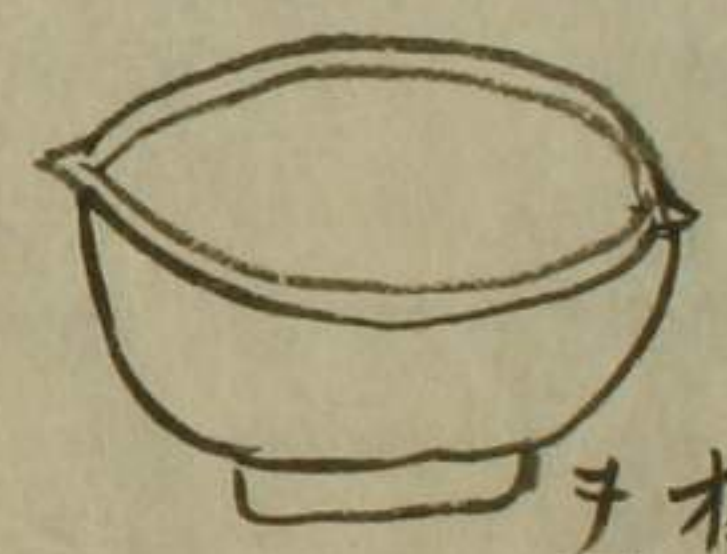
此処櫓ヲ掛ル処云



唐太婦人帶金之圖



唐太梳ノ圖



梳鍋ノ類一坊土燒物
ヲ用金木ヲ不用



唐太キセルノ器

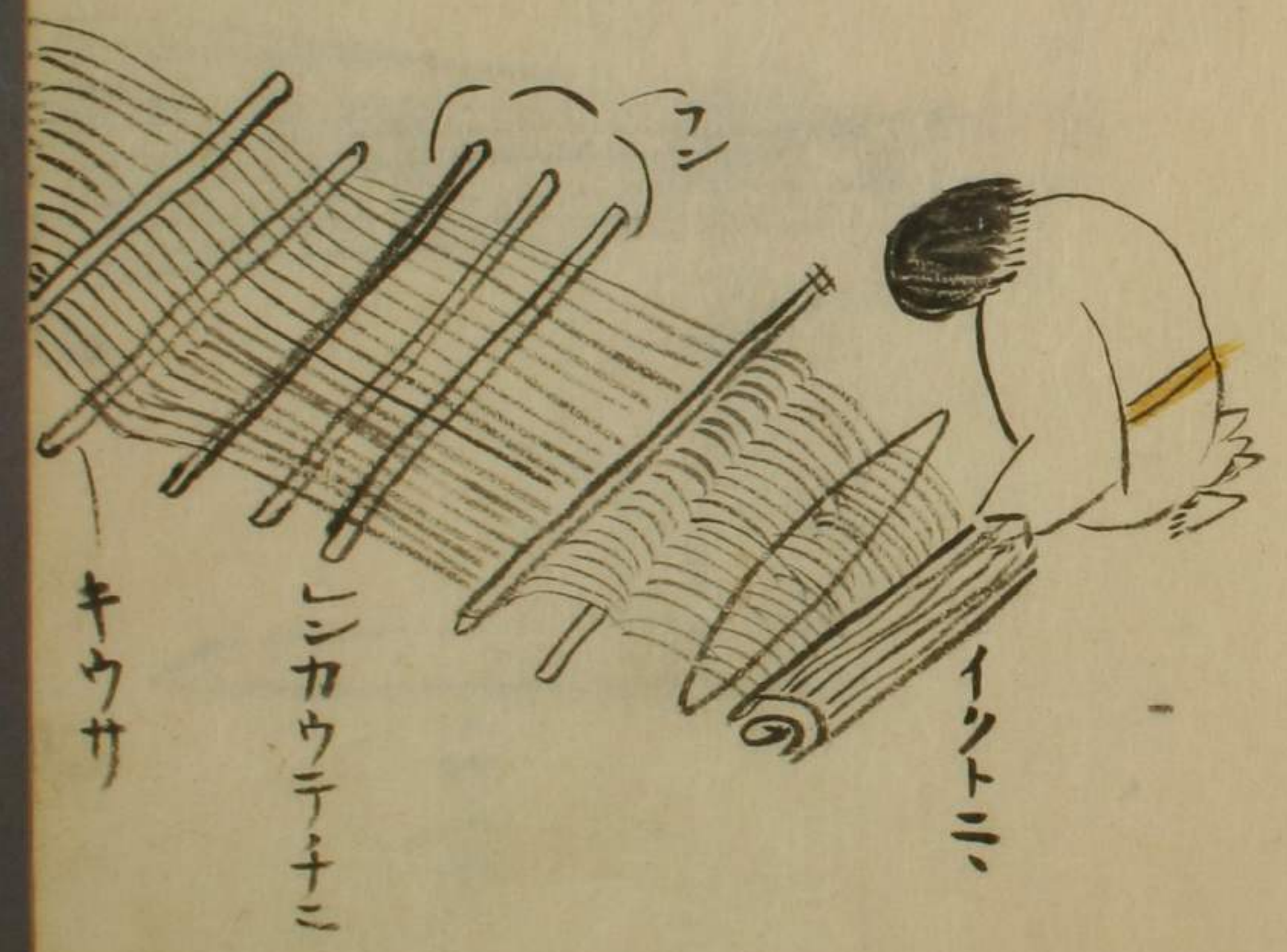
ヤウラカナル
石ヲ以テコシ
ラユル物ニ
ラウ竹ヲスケル処ハ
真鍮ノカウヲナ
カクル幅ニ多餘大休
吸口ヲ不付ト云



彫物

此処輪金

蝦夷女子
アウシ織ノ圖

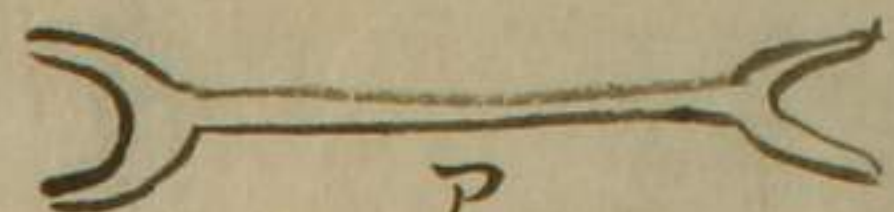


キウサ

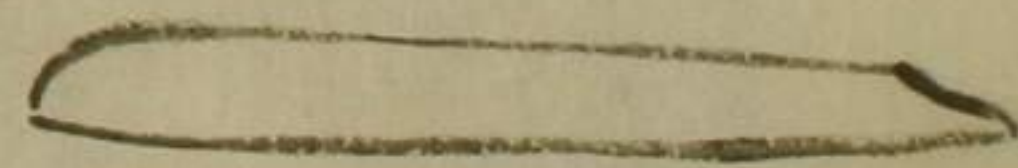
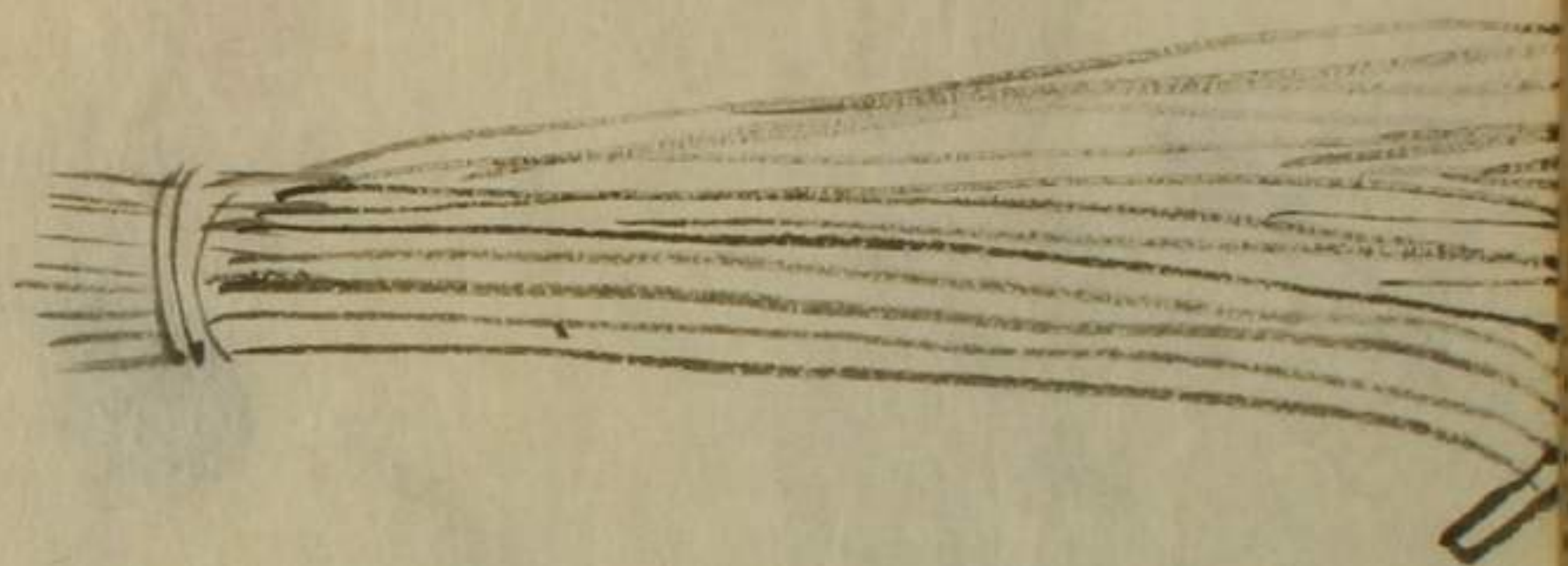
ニシカウテ子ニ

イクトニ

山舟之衣服



アツカニ



ウヘ

山丹人物



真唐太人物
イコルヤンケ



唐人物
 唐者唐太
 東ニ在住ス



唐人物

唐太人物

衣服と地を
 山毎に
 本原を
 頭六
 糸と
 物
 さ
 何
 前
 法
 利



利
 或
 刀
 逆
 云

唐太嶋婦人
 女子ノ帯ハ直落
 ノ平タキスガシ
 玉物をセウ
 つまきたる物子
 糸ノ方ニカ
 玉飾ハセリ
 ぬる物を洗
 たり後
 旦一糸ノ方
 品申
 洗
 山母
 物云



ナ
 ル
 魯西亜人物

佛島定富山
 元十郎貞五ツ
 正トロウ鳩出
 役時若ヤ
 人ノコニ來居
 正ルヲ見テ
 写スル処ニ
 衣服ハ羅
 此見タ
 魯西亜人男
 コレイコ
 フズ
 フセ
 女ノ名
 正ナシ



唐太嶋千上方之
山之圖

唐太人三原多原
是知古法所り
中付山石壁
むり秋と云
山あり其峻
岨之山上山名の
りく草草可



文化四丁卯正月書

松前候領事東蝦夷
地一回是令五七年以
前御上地と云ふ
南丁卯春松前在
西蝦夷地共不残
御上地一回御取上
御高九千石替地
松前候其他國
以下申迄書写
在



西蝦夷リイシリ山
之圖

宗谷三内港分八里
夜太白主藩分四十里
海平内河の嶋山あり
高山所々頂上四時
雪積るるあり
中根の上六草本
中根の中あり
宗谷の島夏夏月
ふり能く其の故
似富土山



文徳四丁卯九月十九日水前
出帆高船之説

買正旨下蝦夷イ占ツ
多知、星國船三万石積
中ノ船三艘三四千石積
位ノ船三艘以上二艘
日先舟台沖、流居知
正旨百石陸上ノ居合
大正舟、老古人、無名儀
少役人、支那令七人
押捕、舟船、百石令
役人、舟、向知石火矣
舟、是、五人、怪我、由、力



唐太其白主添

之圖

白主山高山之

三 難叶大鴻 少如川之
 公候之河達 上之中文
 九月十七日 相前城下
 仲 是船之般 亦見
 十八日 是之見 知帆 亦未
 是 是國船 亦送令
 相前大駱 勃 亦役人



廣平之如治 亦日
 七時 仲三里 計分
 多 夜分 河中
 高張 亦亦 駱勃
 如 平 亦 風 留 亦 朝 亦
 行 亦 亦 亦 亦

九月 上旬 下 蝦夷 地
 夕 十 日 亦 亦 是 國 船 亦
 是 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
 日 十 九 日 亦 亦 亦 亦 亦
 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

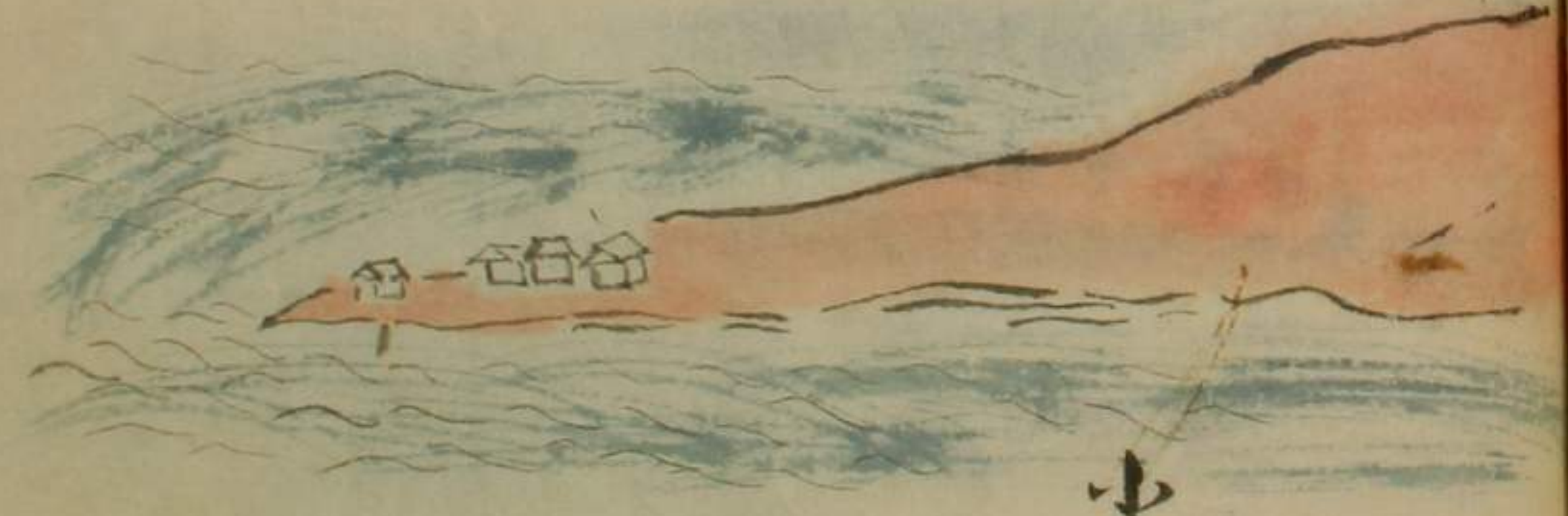


東蝦夷内浦嶽
北望之圖

丁卯九月廿二日江左院
勘前野原布船し流
舟月十日少風と海より
居る如き船お見たり地方
船止るは之知大船退す
万とあめり剛津怪念
関島井留す而ふ也



此知遠嶽山石多しは是國船
右し知お考代沖へ出上り
方船より山布船と雖日
其日以是為常沖へ是船
其右に般見ると係前作進
船と別船見ると又は是
風流夕しりは是船と常
長今 松名を庫高田船
船組を残し儀赤船船組
役人主七人南船家士七人
出組右二般と申早人程多船
ヨリ押捕連行と南船主人



小沼

内浦嶽西之圖

五
 又五人之并今如船中より
 去矣余は夫男其人計初
 宗主を捕へて殺し何處
 手向すしそを道に送る事
 役人相前箱籠より去る
 イトロツラクナシリ
 此リヘツケル所是船
 日中人多押捕年殺貨物

本島に運上船後別本島
 燈塔以上外之天要相前
 之を長男が津恒在内地
 ありし初原を下り船
 海上通路を絶つ

松前小羽撤写

東蝦夷地中イトロツラク
 異國と大船往来及年乳
 シナリ終つ附合下故
 中舟南の天候を失津恒
 船中守難多修地勅書
 今迄傍人殺し何處に送る
 石見五人九送下接去る



大沼

海軍の海岸をくく産小火砲
を以て海軍の要を以て防禦
の要也

南昌山之圖

南昌山は南昌府の南に在り
地理の要なる所なり故に
海軍の要也

五月十九日
羽太氏八景被海奉行
此檄若被合わると在り
此山は海軍の要なる所なり
故に海軍の要也



大高池 中表之痛

日 村上喜三

日 中表之痛

日 中表之痛

日 中表之痛

日 中表之痛

但山下役十人

左 中表之痛

左 中表之痛

左 中表之痛

左 中表之痛

左 中表之痛

左 中表之痛

左 中表之痛

新く山役人申

五月十九日
羽太氏八景被海奉行
此檄若被合わると在り
此山は海軍の要なる所なり
故に海軍の要也



左 中表之痛

左 中表之痛

左 中表之痛

左 中表之痛

左 中表之痛

水師、屯大營、入江、舟、八、十、傷、平、く、二、四、十、五、十、
殺、多、三、く、旬、神、之、五、年、以、乘、公、く、使、建、友、到、也、
百、五、七、年、く、候、運、公、八、百、五、所、成、く、相、及、公、中、之、難、業、
三、く、之、元、之、五、年、以、乘、公、進、了、以、上、地、お、成、公、分、候、
利、乃、此、也、斗、計、之、時、所、八、十、由、何、方、方、上、下、其、人、
段、以、通、行、三、く、之、別、之、五、是、お、成、公、之、子、以、乘、
乃、上、海、岸、口、五、是、斗、是、上、く、岩、杯、を、衝、手、之、三、
九、り、病、亦、亦、お、成、公、之、下、り、坂、口、に、候、く、難、業、
以、成、公、之、利、乃、此、也、斗、計、之、時、所、八、十、由、何、方、方、上、下、其、人、

一、船、夷、地、一、傳、字、圖、之、果、彼、公、高、路、程、先、く、
油、馬、仁、と、申、事、之、時、知、也、之、候、之、事、之、後、役、人、亦、申、
乃、之、候、り、油、年、場、本、公、在、今、所、少、金、亦、殺、多、之、公、
而、之、候、事、之、四、十、五、年、以、乘、公、之、後、攝、公、以、之、信、由、
亦、是、於、公、古、間、之、事、之、一、百、廿、之、火、子、贊、之、候、
也、之、事、乃、事、公、外、通、了、三、年、之、間、也、一、志、之、事、
以、之、信、由、亦、未、成、成、人、亦、殺、多、之、事、之、上、下、中、候、
船、及、利、無、大、上、亦、古、人、余、力、亦、殺、多、之、事、之、時、所、
亦、用、船、之、般、子、亦、古、不、積、之、船、也、斗、計、之、時、所、

